

復興フォーラム2026

～震災から15年、被災地の現状と課題



大門高子さん
(作詞家)



篠原啓一さん
(共同通信社)



三瓶春江さん
(津島地区出身)



原田雄一さん
(元浪江商工会長)



三原由起子さん
(浪江出身歌人)



阿部裕行さん
(多摩市長)



平清太郎

東日本大震災から15年。震災や原発事故に関する情報を目にすることはほとんどなくなりました。時間の経過とともに、震災や原発事故のことが少しずつ色あせています。被災地への関心が薄れていくことは最も危惧することの一つです。

そこで第一部では、福島県浪江町津島地区の歴史や住民の思いが込められた合唱劇「福島津島地区に心を寄せて」『花地蔵物語』～満蒙・開拓・原発～を鑑賞いただきます。この組曲は作詞家の大門高子さんと合唱団の皆さんが、足しげく津島に通い、住民からの話をもとに生まれました。

津島地区は戦後、満蒙開拓者が満州から引き揚げ入植しましたが、厳しい生活が続きました。苦難の末にやっとつかんだ幸せな暮らしが原発事故により奪われました。苦難の歴史について考えたいと思います。

そして、第二部では、「パネルディスカッション」～震災から15年、被災地の現状と課題～をテーマに、震災から15年たった浪江町の現状や課題について話し合います。ここでもう一度原点に立ち返って「福島原発事故の教訓は何であり、それをどう生かしていったらよいか」について深く考えたいと思います。ぜひ皆様のご参加をお願いいたします

パネリスト

阿部裕行さん(多摩市長) 原田雄一さん(浪江町商工会元会長) 三原由起子さん(浪江町出身歌人)
大門高子さん(花地蔵物語作者) 篠原啓一さん(共同通信社) 三瓶春江さん(浪江町津島地区住民)

ファシリテーター: 平 清太郎(桜ヶ丘商店会連合会復興支援担当理事)

日 時: 2026年4月4日(土)13時30分～16時(開場13時)

場 所: 関戸公民館 ヴィータホール (ヴィータコミュニネ8階)聖蹟桜ヶ丘駅徒歩3分

対 象: 多摩市内・在勤・在学者他

主 催: 第45回せいせき桜まつり実行委員会・桜ヶ丘商店会連合会

共 催: 関戸・一ノ宮コミュニティセンター運営協議会

後 援: 多摩市・多摩市教育委員会・多摩市社会福祉協議会・多摩商工会議所

※お問い合わせ先: 桜ヶ丘商店会連合会 ☎042-373-5869 携帯070-6518-7061 たいら

☆参加費: 1000円(資料代・当日受付で支払う)申込必要・先着順200名(未成年者無料)

〇申し込み方法: メールか FAX E-mail: office@seiseki-s.com FAX042-400-7825

※定員になり次第締めきります